

No.2 香港の方々の休日の過ごし方～絶景を求めて～（令和2年12月29日）

日本政府観光局の調査によると、2019年に香港から空路で出境した方は1,296万人。人口が750万人なので一人当たり年間1.7回の海外旅行をしていることになる。同年の日本からの出国者数は2,008万人（一人当たり0.15回）。香港の方々がどれだけ海外旅行を好んでいるのかがわかる。



新型コロナウイルスの感染拡大にともない、旅行好きの香港の方々が日本をはじめと

した海外旅行へ行けない中、休日をどのように過ごしているのか、一例をレポートする。

香港は「高層ビル群」という都会的なイメージが強いが、実は面積の40%をカントリーパークや自然保護区が占め、その中には長短さまざまなハイキングコースが整備されている。主要な長距離ハイキングコースには香港島に香港トレイル（50Km）、九龍半島・新界地区にマクレホース（麦理浩徑）トレイル（100Km）などがある。ハイキングコースには難易度などによって家族ハイキングコース、自然ハイキングコース、カントリートレイルがあり、細かなものも含めると総延長は600kmになる。

これらのトレイルには、コロナの感染拡大前と比較して多くの方々が訪れているようである。職場の仲間、親子連れ、友達同士、夫婦、カップルとそのグループ構成やハイキング、トレイルランニング、キャンプなどの目的もバラエティーが豊かだ。「映える絶景ポイント」には黒山の人だかりができており、多くの方々が写真撮影を楽しみ、会員制交流サイト（SNS）に投稿している。キャンプやグランピングを楽しむ香港の方々も増加したようである。

アウトドアアクティビティーに今まで以上に親しんだ香港の方々には、栃木県の四季折々の「絶景」と「ハイキング」を組み合わせた観光が、今まで以上に深い感銘を与えられるのではないかと考えている。一面にツツジが咲き乱れる春の八方ヶ原や那須八幡、ズミやワタスゲの群生を楽しめる初夏の戦場ヶ原、天空へ続く1445段をのぼりながらニッコウキスゲを楽しむ霧降高原、紅葉時期の各地のハイキングコース、川霧に山々が幻想的に浮かぶ鎌倉山など、数え上げればきりが無い。日本へ観光ができるようになったら、香港の方々に栃木県の「絶景」×「ハイキング」を味わっていただきたい。

（県香港事務所 鈴木憲典）

【写真】香港最大の島、ランタオ島にあるランタオトレイルの様子